

第4学年 算数科授業実践

1 単元名 2けたでわるわり算「筆算のしかたを考えよう」

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 除数が2位数の場合も、除法の計算ができることを理解し、筆算のアルゴリズムを理解することができる。 ② 除法の場面を式に表したり、除法の計算の手順にしたがって処理をしたりすることができる。	① 除法に関して成り立つ性質などをもとに、計算の仕方を考えることができる。 ② 仮商を修正していく方法について理解し、説明することができる。	① 除数の桁数が増えても、既習事を利用して、自ら問題を解決しようとしている。

3 教材のとらえ

本単元では、整数の除法の筆算において、除数を2位数、被除数を2位数、3位数へと拡張させる。除法の筆算において、2位数でわる計算の仕方を考えていく活動を通して、2位数でわっても1位数と同じように計算していけることを児童が気づき、統合して考えていくことで、除数が大きくなっても筆算での計算ができるようになっていくことがねらいである。

本時では、除数が2位数になると仮商を見つけたり、修正したりする必要がある。切り捨てや切り上げ、四捨五入をして概数として見ることや数の感覚を働かせながら、仮商を立てたり商の修正を行ったりする。そのため、筆算のしかたを覚えていくような形式的な指導は、児童にとって計算方法の理解と習熟に困難さが増すことが予想される。どこの位から商がたつのか、仮の商をいくつにすればよいのか、どのように仮の商を修正していくのか、各段階での意味を捉えながら計算ができるようにしたい。

また、小グループでの活動を活用し、友達から教えてもらえるような時間を確保する。実際に、1けたでわるわり算の単元では、理解が難しい内容に関して、友達の説明を聞いて「分かった。」と声を出して理解できる児童の姿もあった。このような時間や手立てを活用し、学級全体が本時の問いに対する答えを導き出せるように指導していきたい。



6 本時の指導案

本時の目標「仮商の修正を含む筆算の手順を理解し、そのやり方について説明することができる。」
 本時の学習（5/12）

学習活動	教師の支援
1 前時の内容を振り返る。 ・ $90 \div 30$で見当をつけたけどかけたら大きくなったから商をなおした。 ・ $100 \div 30$でも見当をたてられたよ 2 本時の問題を確認する。 $68 \div 16$の筆算のしかたを考えよう 3 問題を解く ・ $60 \div 10$で計算すると商は6で見当がつくね ・ $70 \div 20$で計算して、3でも見当がつくよ ・ 見当がずれちゃった。どうしよう？ 4 本時のめあてを設定する。	○前時に書いた児童の振り返りの言葉を把握し、「本時のめあて」につなげていく。 ○前時の問題との違いを比較できるように板書していく。 ○児童に予想を聞き、3～6までの間に正答があることの予想をたてる。
見当がずれちゃった。どうしよう？	
5 自分の考え方を整理する。 ① 見当を6で計算する ② 見当を3で計算する $\begin{array}{r} 6 \\ 16 \overline{) 68} \\ \underline{96} \end{array}$ $\begin{array}{r} 3 \\ 16 \overline{) 68} \\ \underline{48} \\ 20 \end{array}$ ・ 商を2回直したらできるけど… ・ 商を直したら4になったけど合ってるかな 6 全体で共有する。 ・ 商を小さくしていったらできたよ ・ 商を大きくしていてもできたよ ・ 商を何回も直していいんだね。 7 まとめ	○この段階では、解くことができなくてもよいことを声かけする。 ○小グループでの交流し、全体共有へつなげる。 ○仮商を小さくしていく手法を考えている児童を中心に意図的に指名していく。 ○仮商を大きくしていく手法を考えている児童がいれば取り上げていく。
見当がずれちゃったら、商を大きくしたり、小さくしたりして直して計算する	
8 適用問題を解く。 9 学習の振り返りをする。 ・ 商を何回も直していいんだね ・ このやり方なら3けたの筆算もできそうだな。	【思考・判断・表現】 仮商を修正していく方法について理解し、説明することができる。 ○教師が整理し、児童の言葉でまとめられるようにする。 ○1問をピックアップして、みんなで解く。 ○振り返りの視点を明確にし、記入する。 ・ 今日、何を学んだか ・ 友達の意見を聞いて何を学んだか ・ 次は、どんなことを学びたいか